

○沖田千代（純真女子短大）、児玉満、松崎浩士（東和大）

目的 我々は 1995 年、解剖生理学実験マルチメディアシミュレート教材を作成し、評価調査の結果、教育上の有効性を確認し報告した。しかし、当時人的パワーやパソコンの容量、機能の点などから幾つかの問題点が残されていた。今回、IT 時代に進歩した機器を用いて問題点を軸に改善を試み、解剖生理学実験で実際に学生に使用して評価調査を行った。良好な結果が得られたので報告する。

方法 PowerMacintoshG4/MacOS9 を使用し、デジタルビデオカメラを用いて画像を取り込んだ。各素材およびそれらの編集は、それぞれ専用の市販ソフトウェアおよびフリーウェア、シェアウェアを使用した。板書で実験の説明を行った後に本教材を見せ実験を行わせた。1 週間後に評価調査を自記法で実施した。結果 教材は障害なく設置コンピュータで稼動した。評価では、理解度、使用感、画面の美的感触度の 3 項目に分けて質問した。今回の教材は前回に比較して、約 90% の学生が理解しやすさに着目し、美的感触度、使用感の順に意識していた。その背景を調査するフリーアンサーでは文字の大きさ、背景となる色使い、進歩に沿った動きによる誘導といった編集技術に理解度の上昇を支えている要因があった。